

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	とちぎけんりつ さのこうとうがっこう				②所在都道府県	栃木県
28～32	① 学校名	栃木県立佐野高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学312名（3クラス・3学年）	高校473名（4クラス・3学年）
	普通科	161	157	155	—	473	全校生徒785名
中学	105	105	102	—	312		
⑥研究開発構想名	地域貢献から世界の社会課題解決を目指す「田中正造型」グローバルリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	郷土の偉人「田中正造」に学び、持続可能な社会の実現に貢献する志の高いグローバルリーダーを育成する。高大連携や高高連携などのネットワークにより、地域への貢献を世界の社会課題の解決へと『シンカ（深化、進化、真価、Thinker）』させるとともに、地域と連携することによって、本県のグローバル教育の推進に貢献する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>日本初の公害である足尾鉍毒事件の解決に向けて奔走した郷土の偉人「田中正造」に学ぶことを通して、環境問題から派生する様々な社会課題の解決を提言・行動することにより、持続可能な社会の実現を目指す志の高いグローバルリーダーを育成する。</p> <p>グローバルリーダーの資質・能力として、①課題を発見し向き合う力、②論理的・批判的に思考する力、③協働して課題を解決する力、④情報を発信する力、⑤英語で伝える力、⑥グローバル社会に貢献する高い志とチャレンジ精神、を育成する。また、地域の小学校、中学、高校、大学、関係機関や本県のグローバル人材育成事業と連携することにより、グローバル教育を推進する拠点として貢献する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>開校以来 115 年の伝統のある本校は、現在、中高一貫教育校として、「国際人として活躍できる真のリーダー」の育成を教育目標に掲げている。平成 27 年度、SGHアソシエイトに選定されたことを機に、高大連携による課題研究に取り組むなど、生徒や教員、保護者のみならず、学校を支える地域全体によって、本校のグローバル教育を推進する機運が高まってきた。そこで、現状を分析し、課題を明確化することによって、研究開発の仮説を設定した。</p> <p>課題 1：持続可能な社会を実現する高い志を有する将来のグローバルリーダーのロールモデルを設定し、地域貢献と世界の社会問題解決が繋がっていることを意識させる。</p> <p>課題 2：高校での学びが、世界を視野に入れたグローバルリーダーとしての基礎能力育成につながるよう、生徒が自らのキャリアパスを描くための学習支援体制を築く。</p> <p>課題 3：すべての生徒が、グローバルマインドを醸成し、自らの殻を破り、それぞれの形でグローバルを意識した、チャレンジするグローバルリーダーを目指す。</p> <p>課題 4：グローバル教育を推進するため、すべての教育活動を『シンカ』させる。</p> <p>課題 5：積極的にグローバル教育を推進しその成果を地域から全国に広める拠点となる</p> <p>〔研究開発の仮説〕</p> <p>仮説①：「グローバル探究プログラム」を実践することにより、高い志をもった将来のグローバルリーダーを育成するとともに、将来のキャリアパスを描くことができる。</p> <p>仮説②：生徒全員が課題研究に取り組み、高大連携や高高連携、関係機関との連携などを効果的に取り入れることにより、生徒は、自らの殻を破り、チャレンジ精神を身につけるとともに、課題研究の質を飛躍的に高めることができる。</p> <p>仮説③：すべての教科でのアクティブラーニング型授業の導入や教科のSGH化、学校設定教科 CTP (Critical Thinking Program) の実践、英語によるコミュニケーション能力の向上、評価方法の研究開発等を進めることで、本校のグローバル教育全体が『シンカ（深化、進化、真価、Thinker）』する。</p>					

	<p>仮説④：近隣の小学校や中学校、県内の高校、大学、関係団体等と連携することにより、本県のグローバル教育の推進を牽引する。</p> <p><b>(3) 成果の普及</b></p> <p>① 公開授業、研究授業の実施（7月と11月、計4日間）</p> <p>② 小中学生対象グローバル教室の開催（大学と連携、高校生がコーディネート）</p> <p>③ 研究成果発表会の実施（12月）</p> <p>④ 本校のHPからの情報発信（SGH通信の発行、生徒の課題研究の動画配信）</p> <p>⑤ 県のグローバル人材育成事業との連携</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b></p> <p>田中正造が提唱した「真の文明」（「真の文明は、山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」）を「持続可能な社会」ととらえ、環境問題から派生する様々な社会課題を以下の6つの領域に分類し、その中から、班（1班4名、全部で40班）ごとに地域に根ざしたテーマを発見・設定し、課題研究を実践する。</p> <p>ア 公害や災害からの復興      イ 自然・生命      ウ 食料・エネルギー・水 エ 環境と経済・法律      オ まちづくり・コミュニティ      カ 人権・教育・文化</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>「グローバル探究プログラム」：総合的な学習の時間3単位＋グローバル情報2単位</p> <p><u>1年次</u>：地域課題研究。各班に連携大学の留学生や留学を経験した大学生等がメンバーとして加わり、課題の設定（7月）、フィールドワーク（夏休み）、中間発表（9月）、研究のまとめ（11月）等に係わり、協働して研究に取り組む。SGHクラブ（課外活動、受講者を募集）参加者は、熊本（水俣病からの復興）や福島（原発災害からの復興）で現地の高校や大学と協働フィールドワークを実施する。また「海外グローバル研修」参加者（40名程度）は、研究の成果をカナダの連携校（高・大）で発表する。</p> <p><u>2年次</u>：異文化研究。1年次に設定した課題について、海外ではどのようなことが問題になっているかを調査する。調査対象は、台湾とMy Another Countryの2本立てとする。台湾研究では台湾グローバル研修（10月）でフィールドワークを実施し、My Another Countryでは、班ごとに1つの国や地域を設定し、連携する大学の留学生や各国大使館、JICA等から主体的に情報を収集する。</p> <p><u>3年次</u>：研究成果の発表とキャリアパス探究。1、2年次の課題研究を論文にまとめ、国内外の成果発表会やコンクール等で発表する。また、自らの将来像とそこに至るキャリアパスを探究する（「私の学び計画書」「シンカ宣言」（英語）等の作成）</p> <p>→1、2年次の課題研究の評価については、ルーブリックによるパフォーマンス評価を行う。また、3年次については、研究論文等の内容をもとに評価検証する。</p> <p>「SGHクラブ」：課題研究等に関して高い関心と意欲をもつ生徒を対象とする。国内および海外フィールドワーク等により、研究を深めるとともに、英語によるコミュニケーション能力を高めるため、ディベートやディスカッションなどの活動も実施する。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>必履修科目「社会と情報」（2単位）の代替として、学校設定科目「グローバル情報」（2単位、第1学年を対象に1単位、第2学年員を対象に1単位、分割履修）を設置。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>批判的な思考を身につけるため、1年次に学校設定教科目「CTP」の授業を開発する。CTPは、英語科と国語科、数学科、地歴科・公民科、理科のTTによる教科横断的型授業とし、アクティブラーニング等を実施する。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b></p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法以上、特になし。</b></p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨ その他 特記事項</p>	<p>アソシエイト校として教育活動のグローバル化に努めてきた。「海外グローバル研修」では、高大連携による「課題研究プロジェクト」を実施した。また「SGHアソシエイト通信」を全ての生徒・保護者に配布し、SGH活動の普及・啓発を積極的に行った。</p>